

単元	5 1000までの数（12時間）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1000までの数の仕組みや計算方法のよさに気付き、進んで生活や学習に生かそうとする態度を育てる。 ・十進位取り記数法に基づく1000までの数の仕組みや表し方について考えられるようにするとともに、1000までの数の相対的な見方ができるようにする。 ・十進位取り記数法に基づいて1000までの数を表すことができるとともに、数構成に基づく加法・減法の計算ができるようにする。 ・1000までの数の構成や表し方、大小や系列を理解するとともに、数構成に基づく加法・減法の計算の仕方を理解できるようにする。 	
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・算数への関心・意欲・態度 ・数学的な考え方 ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものを10や100、1000のまとまりにして数えるよさに気付き、数に表したり読んだりしようとしている。 ・具体的なものの個数を実際に数える活動を通して、十進位取り記数法の仕組みを考えたり、1000までの数の計算の仕方を10や100を単位とする考え方で説明したりしている。 ・10や100を単位として、1000までの数を数えたり、表したりすることができるとともに、その加減計算ができる。 ・1000までの数についての豊かな感覚をもち、数の読み方や表し方、大小や系列、相対的な見方、加法・減法の計算の仕方を理解している。

【既習事項】

- ・100までの数 ・位取り記数法、一の位、十の位

【第3学年の指導】

- ・一万までの数の概念、千の位 ・数の相対的な大きさ
- ・数の相対的な見方に基づく加減計算

【単元計画】

指導案の表記について

有能感

九九の表なら作ることができそうだ。

その活動を行うことで、子どもがもっと考えられるおもしろい

その活動で、育てたい学習意欲のみなもと

時	学習活動
1	数え方を工夫し、100を超える数の読み方を知って、進んで100を超える数の数え方について考えようとする。
2	3位数について、十進位取り記数法での数の表し方や構成を理解する。
3	空位のある3位数を数字で表す。
4	10を単位としてその幾つ分になるかを考える。
5	10や100を基に、数の相対的な大きさを考え、1000という数の構成や数の系列を理解する。
6	数直線の目盛の大きさに着目し、1000までの数の系列や順序を考える。
7	十進位取り記数法の仕組みを基にして、3位数の大小を比較し、大小を比較する記号を知る。
8	1000までの数の構成、数の大小、数の順序や系列について理解する。
9	(何十) ± (何十), (百何十) - (何十) の計算を、10を単位にして考える。
10	(何百) ± (何百) の計算を、100を単位にして計算する。
11・12	単元のまとめや「学びをいかそう」に取り組み、学習内容が定着しているかを確認する。

※第8時、第11・12時は復習のため、指導案は掲載していません。

<第1時>本時の目標… (関心・意欲・態度) 既習事項を基に、10のまとまりを基本として考えようとする。

(数学的な考え方) 100の束が三つで三百になることを既習事項から類推的に考えられるようにする。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. 星の数を数えるという活動の「見通し」をもつ。(8分)	問題：星の数を数えよう *拡大掲示物を用意することで視覚化し、「数える」という課題を把握できるようにする。	
<p>有能感</p> <p>きまりが見付ければ、大きな数のかけ算もできるようなりそうだ。</p>	<p>「はかせ」で数えてみよう。</p> <p>「どうやって数えたらいいでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つつ数えてみよう。 ・5とびで数えてみよう。 ・10のまとまりを作ってみよう。 	
2. 数え方を個人で考える。(10分)	<p>「数え方を説明しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10が6つと、1が5つあるよ。 ・10が10こで100 ・100のまとまりが3つできるね。 	<p>関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を基に、10のまとまりを基本として考えようとしている。(数える様子)
3. 考えた数え方について話し合う。(12分)	<p>「どのような数え方をしましたか。」</p> <p>*拡大掲示物を使って説明できるようにすることで、説明している内容を視覚化できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>100が3つで「三百」といいます。 ぜんぶで「三百六十五」といいます。</p> </div>	<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100の束が三つで300になることを既習事項から類推的に考えている。(ノートへの記述)
<p>5. 伝え合い (5分)</p> <p>有能感</p> <p>今日学習してわかったことを話すことができた。</p> <p>他者受容感</p> <p>友だちに自分の説明を聞いてもらった。</p>	<p>「今日学習したことを、二人組で伝え合いましょう。どちらが先に伝えても構いません。立って伝え合いをし、終わったら座りましょう。聞く人は伝わったら、『わかりました』と返事をしましょう。」</p> <p>*伝える(話す)内容が分からない児童には、板書やノートを見てよいということを伝えることで、内容を確認できるようにする。</p> <p>*うまく伝え合うことができていた二人組に全体の前で再現する場を設けることで、伝え合い活動のイメージをもつことができるようにする。</p>	

<p>6. 適応題に取り組む。 (7分)</p> <p>7. 振り返りを書き、交流する。 (3分)</p> <p>自己決定感 ほかの大きな数も数えてみたい。</p>	<p>「教科書の練習問題に取り組みましょう。できたら、振り返りを書きましょう。」</p> <p>*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。</p>	
--	---	--

<第1時板書計画>

1000までの数

教科書p.60,61の図

「はかせ」で数えてみよう。

10 が10こで 100

100 100 100 10 10 10 10 10 10 五

百が三つ 十が六つ

さんびゃく ろくじゅう ご

星の数を数えよう。
・1つずつ数える。 5とびで数える。 10でまとめる。

準備物： 掲示用数え棒， 拡大挿絵

<第2時>本時の目標… (知識・理解) 3位数について、数字での表し方や構成を理解できるようにする。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：三百六十五を数字でかきましょう。 *拡大掲示物を用意することで、数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
100 をこえる数はすうじでどうかのかな。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 位を使うと、考えられそうだ。	「数字で表すときにはどんな方法を使ったかな。」 ・「くらい」を使います。 ・「百のくらい」を作ってみたらどうかな。	
3. 書き方を自分で考える。(7分)	・一は五つだから、一の位の数は5。 十が六つだから、十の位の数は6。 百の位を作って、 百が三つだから、百の位の数は3。 →だから「3 6 5」となります。	知識・理解 ・3位数について、数字での表し方や、数の構成を理解している。 (ノートへの記述)
4. 書き方を話し合う。 (15分)	「書き方を説明しましょう。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	「それでは、今日学習したことを伝え合いましょう。 聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。	
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き、交流する」。 (3分) 自己決定感 ほかの数字も書いてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第2時板書計画>

三百六十五を数字でかきましょう。

100をこえる数は数字でどうかくのかな。

三百 六十 五

365は 100を 3こ → 百のくらいの数 3
 10を 6こ → 十のくらいの数 6
 1を 5こ → 一のくらいの数 5
 あわせた数です。

3	6	5
百の く ら い	十の く ら い	一の く ら い

準備物： 掲示用数え棒， 拡大位取り板

<第3時>本時の目標… (技能) 空位のある3位数を数字で表すことができるようにする

学習活動	「教師の主な発問 ・ 予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：三百六十五を数字でかきましょう。 *拡大掲示物を用意することで、数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> くらいに数がないときはどうするのかな。 </div>		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 位を使うと、考えられそうだ。	「365のときはどうしましたか。」 ・位取り板を使った。 ・「ない」は数字で「0」で表せるよ。	
3. 書き方を自分で考える。(7分)	・百が二つだから、百の位の数は2。 一が八つだから、一の位の数は8。 十の位は数がないので、0。 →だから「208」となります。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">技能</div> ・空位のある3位数を数字で表すことができる。 (発表、 ノートへの記述)
4. 書き方を話し合う。 (15分)	「書き方を説明しましょう。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。	「それでは、今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。	
他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。		
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き、交流する」。 (3分) 自己決定感 ほかの大きな数も数えてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第3時板書計画>

二百八を数字でかきましょう。

二百



八



2	0	8
百の く ら い	十の く ら い	一の く ら い

くらいに数がないときはどうするのかな。

100を	2こ	→	百のくらいの数	2
10を	0こ	→	十のくらいの数	0
1を	8こ	→	一のくらいの数	8
あわせた数です。				

数がないときは、くらいに0を入れます。

準備物：掲示用数え棒，拡大位取り板

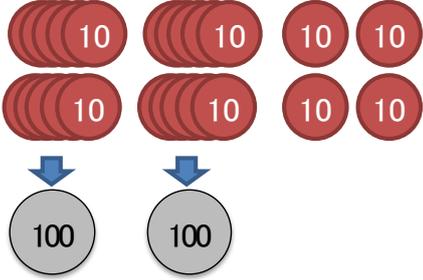
<第4時>本時の目標… (数学的な考え方) 10を単位とした数の構成の仕方を考えられるようにする

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：10を24こあつめた数はいくつですか。 *拡大掲示物を用意することで、数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
10をあつめるとどんな数になるのかな。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 10が10こで100を使うと考えられそうだ。	「10を集めてできる数には、どのようなものがありますか。」 ・10が8こで80です。 ・10が10こで100です。	
3. いくつになるかを自分で考える。(7分)	・24こを20こと4こに分ける。 ・10が10こで100 ・10が20こあるので100が2こになり200 ・のこり10が4こあるので40 ・あわせて240	数学的な考え方 ・10を単位とした数の構成の仕方を考えている。 (発表、ノートへの記述)
4. どのように考えたかを話し合う。(15分)	「どのように考えましたか。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。	「それでは、今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。	
他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。		
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き、交流する」。 (3分) 自己決定感 ほかの大きな数も数えてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第4時板書計画>

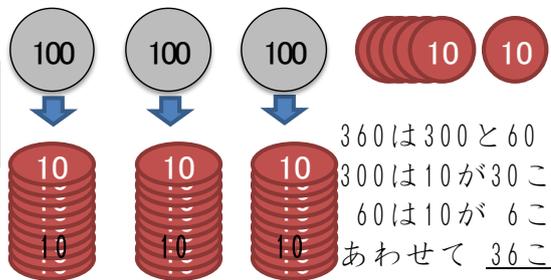
10を24こあつめた数はいくつですか。 10をあつめるとどんな数になるのかな。

10が10こ
↓
100



10が20こで 200 10が4こで40
あわせて 240

100
↓
10が10こ



360は300と60
300は10が30こ
60は10が6こ
あわせて 36こ

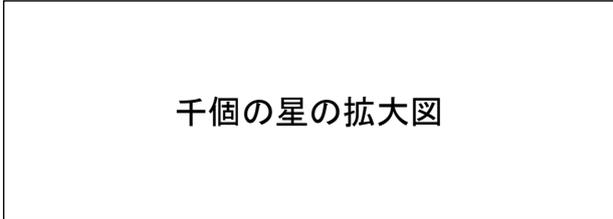
準備物：拡大お金模型

<第5時>本時の目標… (知識・理解) 10 や 100 を基に、数の相対的な大きさを考え、1000 という数の構成や数の系列を理解できるようにする

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：星の数を数えよう。 *拡大掲示物を用意することで、数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
星の数を「はかせ」で数えてみよう。		
2. 解法の見通しをもつ。 (5分) 有能感 10や100のまとまりで数えると、「はかせ」で数えられそう。	「どうやって数えたら、速く、簡単に、正確に数えられるでしょうか。」 ・10のまとまりで数えてみよう。 ・100のまとまりで数えてみよう。	
3. 星の数を数える。 (7分)	・かたまりを囲んだら100こでした。 ・100が10こありました。	
4. 数え方を話し合う。 (15分)	「数え方を説明しましょう。」 100を10こあつめた数 千(1000) 「千はどんな数か、ほかの言い方で説明できますか。」 ・999より1大きい ・10を100こあつめた数	知識・理解
5. 本時で学習したことを伝え合う。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。	「それでは、今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。	・10のまとまりや100のまとまりを作って数え、1000という数の意味を理解している。 (発表, ノートへの記述)
他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。		
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 振り返りを書き、交流する。 (3分) 自己決定感 千より大きい数も調べてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第5時板書計画>

星の数を数えよう。



星の数を「はかせ」で数えよう。

- ・10ずつ数える。
- ・100ずつ数える。

100が10こ

100を10こあつめた数 千 1000

1000より1小さい数は 999

999より1大きい数は 1000

10を100こあつめた数 1000

準備物：拡大お金模型

<第6時>本時の目標… (数学的な考え方) 数直線の見盛りの大きさに着目し、1000までの数の系列や順序を考えることができるようにする。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：数の直線で650, 340, 990をさがそう。 *拡大掲示物を用意することで、数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
数のならびかたはどうなっているのでしょうか。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 数え棒を使うと、考えられそうた。	「数の直線を見て、気付いたことはありますか。」 ・小さな見盛りが10こで100になっているから一目盛りは10になる。 ・数字は100とびで書かれている。	
3. 三つの数字がどこにあるかを自分で考える。 (7分)	・600と700の真ん中に少し長い線があったのでそれが50のしるしだから350になる。 ・300から100, 200…と数えた。 ・990は1000より10小さいから、一つ左です。	数学的な考え方 ・1000までの数の位取りや相対的な大きさ、順序や系列について考えている。 (ノートへの記述)
4. 数直線の読み方を話し合う。 (15分)	「どこになりましたか。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。 (5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。	「それでは、今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから、適応題に取り組むように伝える。	・1000までの数の位取りや相対的な大きさ、順序や系列について考えている。 (発表, ノートへの記述)
他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。		
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き、交流する」。 (3分) 自己決定感 ほかの数も数直線のどこにあるか調べてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで、次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第6時板書計画>

数の直線で650, 340, 990をさがそう。

数のならびかたはどうなっているのでしょうか。

- ・0から100の間に目もりが10こある → 1目もりは 10
- ・数字は100とびになっている。(大きい目もりは100)
- ・いちばん右が1000(でもまだつづいている。)



準備物：数直線の拡大図，児童用作業プリント（数直線）

<第7時>本時の目標… (知識・理解) 十進位取り記数法の仕組みを基にして, 3位数の大小を比較し, 大小を比較する記号を理解できるようにする

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題: とく点をくらべよう。 *拡大掲示物を用意することで, 数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
数の大きさをくらべるにはどのようにすればよいでしょう。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 位取り板や数の直線を使えば比べられそうだ。	「数の大きさをくらべるときにはどのようにして比べますか。」 ・「くらい」を使う。 ・数の直線を使ってみる。	
3. 比べ方を自分で考える。(7分)	(赤と白) ・百の位を比べると, 赤が3で白が2だから, 十の位にどんな数字が入っても赤が勝てる。 (赤と青) ・白のときのように百の位を比べると, どちらも3だから, 十の位をくらべて青が勝つ。	
4. 比べ方を話し合う。 (15分)	「くらべ方を説明しましょう。」 数の大小は上のくらいからくらべる。 同じときはつぎのくらいでくらべる。	知識・理解
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	「それでは, 今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから, 適応題に取り組むように伝える。 ○不等号の表し方を伝える。(大>小, 小<大)	・上の位の数字から順に比べていけば, 効率よく大小比較ができることを理解している。(発表, ノートへの記述)
6. 適応題に取り組む。 (7分)		・上の位の数字から順に比べていけば, 効率よく大小比較ができることを理解している。
7. 「振り返り」を書き, 交流する。 (3分) 自己決定感 ほかの大きな数も数えてみたい。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで, 次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	(ノートへの記述)

<第7時板書計画>

赤組	白組	青組
347	289	350

数の大きさをくらべるにはどうすればよいでしょう。

百 十 一

赤組 3 4 7

白組 2 8 9

百のくらいでくらべる

百 十 一

赤組 3 4 7

青組 3 5 0

百のくらいでくらべる→同じ
→十のくらいでくらべる

とく点をくらべよう。

347は289より大きい

347 $>$ 289

大 小

347は350より小さい

347 $<$ 350

小 大

数の大小は上のくらいからくらべる。
 同じ時はつぎのくらいでくらべる。

準備物：掲示用得点板

<第9時>本時の目標… (数学的な考え方) (何十) + (何十), (百何十) - (何十) の計算を, 10 を単位にして考えることができるようにする。

学習活動	「」教師の主な発問 ・予想される児童の反応 *支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題：おかしやさんのかいものの計算をしよう。 *拡大掲示物を用意することで，数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
(何十) の計算のしかたをかんがえよう。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 10のまとまりを使うと計算できそうだ。	「(何十) を計算するにはどのようにすればよいでしょうか。」 ・10のまとまりで考えよう。 ・10円玉で考えよう。	
3. 問題を自分で解く。 (7分)	・80+30 80は10が8こ 30は10が3こ だから 80+30 は10が(8+3)こ 10が11こ だから <u>110円</u>	数学的な考え方 ・10を単位として，加法・減法ができることを，類推的に考えている。 (ノートへの記述)
4. 解き方を話し合う。 (15分)	「どのように計算をしましたか。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	「それでは，今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○伝え合いが終わったところから，適応題に取り組むように伝える。	
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き，交流する」。 (3分) 自己決定感 百のまとまりでもできそうだ。	*友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで，次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第9時板書計画>

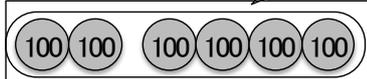
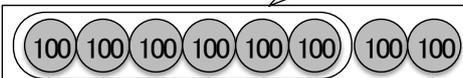
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お菓子の絵</div> <p>チョコレートとあめを 1つずつかいました。 ぜんぶで何円ですか。</p> <p>しき $80+30$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">あわせる</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">何十の計算のしかたをかんがえよう。</div> <p>130円もっています。 ポテトをかうと何円のこりですか。</p> <p>しき $130-90$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">とる</div>
<p>だから $80+30$ は10が $(8+3)$ こ 10が11こ $\rightarrow 110$</p> <p>しき $80+30=110$</p> <p>答え 110円</p>	<p>100</p>  <p>90</p> <p>130は10が13こ 90は10が9こ 130-90は10が $(13-9)$ こ $\rightarrow 4$ こ</p> <p>しき $130-90=40$</p> <p>答え 40円</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">  </div> <p>80は10が<u>8</u>こ 30は10が<u>3</u>こ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">(何十)の計算をするときは 10のまとまりをつかえばよい。</div>

準備物：お菓子の絵の拡大図，拡大お金模型

<第10時>本時の目標… (技能) (何百) ± (何百) の計算を, 100 を単位にして計算できるようにする

学習活動	「」教師の主な発問 ・ 予想される児童の反応 * 支援 ○ 留意点	評価の視点 (評価の方法)
1. めあてと問題を確認する。 (3分)	問題: 文ぼうぐやさんのかいものの計算をしよう。 * 拡大掲示物を用意することで, 数量を視覚的にとらえることができるようにする。	
(何百) の計算のしかたをかながえよう。		
2. 解法の「見通し」をもつ。 (5分) 有能感 100 のまとまりがつかえそう。	「(何十) を計算するにはどう考えましたか。」 ・ 10 のまとまりで計算した。 ・ 10 円玉を使った。	
3. 問題を自分で解く。 (7分)	・ $80+30$ 80 は 10 が 8 こ 30 は 10 が 3 こ だから $80+30$ は 10 が $(8+3)$ こ 10 が 11 こ だから <u>110 円</u>	技能 ・ 100 を単位として, 加法・減法の計算ができる。 (ノートへの記述)
4. 解き方を話し合う。 (15分)	「どのように計算しましたか。」	
5. 本時で学習したことを「伝え合う」。(5分) 有能感 自分の言葉で説明することができた。 他者受容感 友だちに自分の説明を聞いてもらった。	「それでは, 今日学習したことを伝え合いましょう。聞いている人は伝わったら『伝わったよ』と必ず返事をしましょう。」 ○ 伝え合いが終わったところから, 適応題に取り組むように伝える。	
6. 適応題に取り組む。 (7分)		
7. 「振り返りを書き, 交流する」。 (3分) 自己決定感 ほかの大きな数も数えてみたい。	* 友だちの振り返りを聞くことができるようにすることで, 次時の自分の活動に生かすことができるようにする。	

<第 10 時板書計画>

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>文房具の絵</p> </div> <p>ペンとスケッチブックを 1つずつかいました。 ぜんぶで何円ですか。</p> <p>しき $200+400$ あわせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>200は100が2こ 400は100が4こ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>何百の計算のしかたをかんがえよう。</p> </div> <p>だから $200+400$は100が $(2+4)$ こ 100が6こ $\rightarrow 600$</p> <p>しき $200+400=600$ 答え 600円</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(何百) の計算をするときは 100のまとまりをつかえばよい。</p> </div>	<p>800円もっています。 ふでばこをかうと何円のこりですか。</p> <p>しき $800-600$ とる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>800は100が8こ 600は100が6こ $800-600$は100が $(8-6)$ こ $\rightarrow 2$ こ</p> <p>しき $800-600=200$ 答え 200円</p>
--	---	--

準備物：文房具の絵の拡大図，お金の模型（百円玉×14）